

# R7年度 後期学校評価アンケート結果

平素は、本校教育にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。さて、1月に実施いたしました、後期学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。前期に引き続き、「児童」「保護者・地域」「教職員」を対象にアンケートを実施しました。今回の学校評価の結果を真摯に受け止め、よりよい嵯峨野教育の在り方を探り、今後に生かしていきたいと考えております。このアンケート結果は、特徴的な項目をピックアップして分析したものを掲載しております。

## 【生活面】児童・保護者 実現度ベスト5

児 童		後 期	前 期
1位 (保5位)	交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校したり、地域で過ごしたりしていますか。	97.7%	97.4%
2位 (保2位)	友達に親切にしていますか。	97.0%	96.8%
3位 (保3位)	相手の気持ちを考えて「ありがとう」や「ごめんなさい」など、自分の気持ちを伝えられていますか。	93.3%	95.5%
4位 (保7位)	「いじめをしない」「いじめを見のがさない」ができていますか。	92.7%	93.8%
5位 (保1位)	やってはいけないことは、しないようにしていますか。	92.4%	97.0%

保 護 者		後 期	前 期
1位 (児5位)	お子たちがやってはいけないことはしないように働きかけていますか。	98.8%	98.5%
2位 (児2位)	お子たちが友達に対して親切な対応ができるように声をかけていますか。	97.5%	96.8%
3位 (児3位)	お子たちが相手の気持ちを考えて、礼儀正しい行動をすることができるように働きかけていますか。	93.0%	92.6%
4位 (児7位)	お子たちが約束した時間を守るように働きかけていますか。	93.0%	91.2%
5位 (児1位)	お子たちが安全に気を付けて登下校したり、放課後に地域で過ごせるように働きかけたりしていますか。	89.5%	92.6%

安全に関する項目は、前期・後期とも1位でした。登下校中の見守り・安全指導、ありがとうございます！！

### 【児童・保護者の実現度から見えてきたこと】

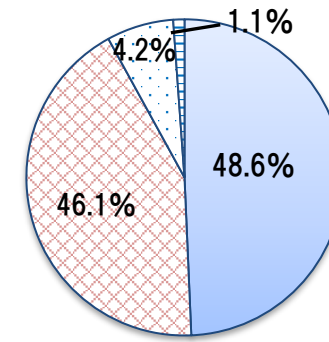
・児童と保護者のアンケートを集計し、実現度の高い順に5つの項目を比較してみると、前期に引き続きほとんど同じ項目において「よくできている」か「だいたいできている」のような肯定的な回答が多いことがわかりました。また、前期と後期の回答を比較しても上位においては、それほど変化がなく、お家での継続的な働きかけが、子どもたちの善い行いに繋がっていると考えられます。引き続き、家庭と学校が同じ思いで子どもたちを育てていくことが大切だと感じました。

・児童の項目別の結果を見ると、「友達に親切にしているか」の肯定的回答が97.0%と非常に高い一方で、3位から5位の「相手の気持ちを考えて対応できているか」や「善悪を自分で判断して行動に移しているか」といった項目は、いずれも90%前後にとどまっています。この結果は、学校生活を通して道徳教育を行っているものの、教職員が日頃から感じて

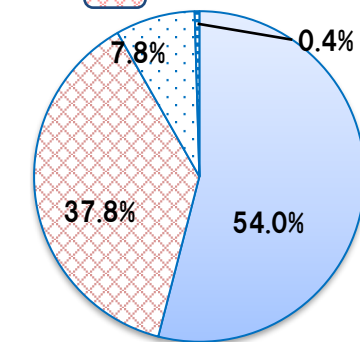
いる児童の実態よりも低い数値となっています。今後は、育てたい資質・能力をより明確にし、計画的かつ継続的に指導を行うことで、児童の道徳的な判断力や実践力を一層育成していく必要があると考えています。

・上の表のほか「自分からあいさつをしているか」という挨拶に関する項目も、わずかながら数値が減少してきていることがわかりました。肯定的回答の内訳を見ると、「よくできている」と答えている児童が5%減少しており、挨拶に向かう意識や主体性の低下がみられることがわかりました。今後、学校生活の中で「なぜ挨拶をする必要があるのか」の意味をさまざまな場面で、児童と共に考えていく機会を設けることが重要だと感じました。継続的に挨拶の大切さを伝える取り組みを重ねることで、挨拶の意識向上につながると考えます。

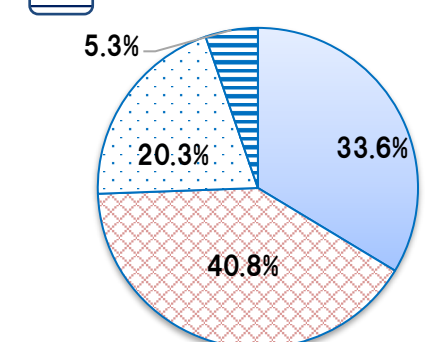
## 【学習面】児童 実現度ベスト3



① 学習のめあてを意識して、自分に合った方法で学習を進めていますか。



② 友達の思いや考えを聞き、自分の思いや考えを伝えようとしていますか。



③ 学習したことから、さらに疑問や興味をもったことについて考えたり調べたりしていますか。

本校では今年度「自分に合った学び方を選び、友達と学び合いながら課題を追究する力を育てる」ことを目標に、授業改善に取り組んできました。算数科を中心に、子どもたちが自分の学びを振り返りながら学習方法を自己選択・決定したり、友達と考えを伝え合う協働的な学びを取り入れたりしながら、学びの主体性を育むことを大切にしてきました。その結果、後期のアンケート結果を前期と比較すると、次のような変化が見られました。

① 自分にあった方法で進める力（肯定的回答：前期 93.3%→後期 92.0%）

後期は、学習内容がより難しくなることもあり、「自分で学びを調整すること」に戸惑う子どもの姿が見られました。一方で授業の中では、タブレットを使って調べたり、ヒントカードを活用したりと、自分で解決しようと工夫する姿が確実に増えています。授業での取組は子どもたちの力となっているものの、「自分のペースで学ぶ」ためには、引き続き支援が必要であることがわかりました。

② 友達の考えを聞き、自分の考えを伝えようとする力（肯定的回答：前期 89.4%→後期 91.8%）

この項目は年間を通して大きな変化はなく、安定した結果でした。普段の話し合い活動や算数での「考え方の交流」の時間が、互いを尊重しながら意見を伝え合う力の維持に繋がっていると考えられます。

③ 学びを深め、疑問を広げる力（肯定的回答：前期 80.2%→後期 74.4%）

後期は授業内容が高度になり、課題をこなすだけで精一杯になる子どももおり、「もっと知りたい」と学びを広げる余裕がなかったことが理由として考えられます。一方で、授業中では「こうしたらいいのでは?」「前の問題に似ている」等、子ども自身が問いを見付けようとする姿も見られました。今後は、学習に追われないように学んだことを生活や次の学びに繋げ、課題を発見するための「余白の時間」をどのようにつくるかを教職員で共有し、進めていきたいと思ひます。

本校では、引き続き「個別最適な学び」と「協働的な学び」を大切に、子どもたちが自分で学びを選択し、友達とも支え合いながら学びを深めていけるよう、学校全体で工夫してまいります。

保護者・地域の皆様にはいつも温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

これからも、子どもたちの成長を共に見守っていただければ幸いです。

